

平成24年10月12日(金) 14時30分～16時30分 江別市民会館23号室

### 外部評価作業

- ・①03-02 健康づくりの推進
- ・②04-05 上下水道の整備
- ・出席委員  
井上分科会長、加藤委員、高田委員、桑名委員
- ・説明員
  - ① 萬センター長(保健センター)、佐藤参事(保健センター)
  - ② 安井課長(水道整備課)、真屋課長(下水道施設課)、村山係長(水道整備課)、藤村係長(下水道施設課)
- ・事務局(政策調整課)  
鈴木企画政策部長、米倉企画政策部次長  
川島課長、稲田主査、竹下主任、馬場主事

### 会議録

- ・外部評価作業
  - 政策03 安心を感じる保健・医療・福祉の充実
  - 施策02 健康づくりの推進
    - ・14時30分～14時45分 萬施策マネージャー・佐藤参事説明
    - ・14時45分～15時45分 質疑応答・指摘・評価

～全体を通して確認したい点、疑問点～

#### 【各委員】

特になし。

～評価項目についての指摘・提言～

#### ▼施策03-02 健康づくりの推進

##### 【井上分科会長】

施策の環境変化と課題について、先ほど口頭であった説明のように文章として記載した方が市民からするとわかりやすいと思う。例えば環境変化の記載は箇条書きになっているが、それぞれの因果関係を考えると大きく2つの課題に分けられる。そのような部分がわかりやすくなるよう、文章の表現を検討できないか。

##### 【萬施策マネージャー】

指摘のようにすることで、市民にとって流れや因果関係がわかりやすくなるのであればそのような記載も検討したい。

**【井上分科会長】**

箇条書きのままでは、1つ1つが全て同じ力関係に見えてしまう。文章化しないとしても、力関係に合わせて1段下げて記載するなど工夫した方が良いように思う。

**【加藤委員】**

達成状況で「地域巡回健康教室の継続」とあり、基本事業02：健康づくりの推進の達成状況にも同様の記述がみられる。このような事務事業の活動が成果指標に結びつくのだと理解しているので、「地域巡回健康教室」の成果指標は参加者数、活動指標は開催回数となる。このような活動指標や成果指標をどちらかに設定した方が市民にとってわかりやすいものとなるので検討していただきたい。

**【萬施策マネージャー】**

指摘にあった「地域巡回健康教室」の開催回数・参加者数ともに把握しているデータなので、今後そのような指標が設定できないか検討する。

**【井上分科会長】**

同じく達成状況で「国の公衆衛生政策と連動した」とあるが、このことが環境変化や課題に入っているのであれば、施策の目的の記載もそのことを念頭に置いた文章に改めたほうが良いのではないか。

また、対象が「市民」となっているが、目的や意図では「長寿」という言葉が出てきている。この施策の中の基本事業で母子保健のことなどを扱っている点からすると、「長寿」とは別に「子供たちの健全さ」に関わるような文言も目的や意図の部分で触れておいて良いのではないか。

**【事務局（川島施策マネージャー）】**

表現可能な部分については所管と相談し、補足することを検討したい。

**▼基本事業01「疾病の早期発見、早期治療及び予防の促進」**

**【高田委員】**

成果指標に「がん検診の受診率」とあり、達成状況の中では「ピンクリボン運動」が強調されていることからすると、成果指標は乳がん検診のみの受診率を見ているのか。

**【萬施策マネージャー】**

「ピンクリボン」は全国的にマスコミも含めた啓発運動で、がんの中でも女性にとって大切な役割を担う時期に発症する事例が多く、がんの例示としてここで記載した。そのため、他のがんも含めた成果指標である。

**【高田委員】**

具体的には健診センターの巡回車等が来て診断するのか、または自ら出向くのか。

**【萬施策マネージャー】**

様々なケースがある。健診センターに出向いて受診する場合、保健センターを会場として健診を行う場合、かかりつけの病院を含む身近な医療機関で行う場合の大きく3つがある。

**【桑名委員】**

基本事業の目的の語尾が「図られます」となっているが、「図ります」とした方が目的

としては相応しいようにも思うがどうか。

**【事務局（川島課長）】**

策定時に委員の指摘部分に関してどのような記載にするかについては議論があった。

この施策に関してはこちらからの働き掛けも重要なのだが、特に市民の方々に健康づくりについて主体的に取り組んでもらう、ということに主眼を置いたため、このような記載になっている。

**【桑名委員】**

了解した。

**【井上施策マネージャー】**

成果指標で「かかりつけの医師をもっている市民の割合」とあるが、この成果指標を設定するに至った経緯はなにか。基本事業の目的からではその部分が読み取れない。

**【佐藤参事】**

「健診のみならず、かかりつけ医をもつことで異常を早期に発見する」ということが設定した背景にある。

**【井上分科会長】**

「日ごろからかかりつけ医によって自己管理をしていく」という記載が目的のところであっても良いのではないか。

**【佐藤参事】**

検討したい。

**【桑名委員】**

基本事業の目的で「健診事後指導を強化」とあるが、具体的な健診後の指導とはどのようなことをしているのか。

**【佐藤参事】**

特にがん検診などについては精密検査を受けた方が良いと判断された方たちが早期に受診行動を起こして治療につなげてもらうということが事後指導に当たる。

**【桑名委員】**

個別に対応するケースもあるのか。

**【佐藤参事】**

ある。電話や手紙などで確認したりするケースもある。

**【桑名委員】**

その部分の努力は達成状況の記載では確認できない。その部分を補記した方が良いのではないか。

**【萬施策マネージャー】**

がん検診の一次健診を受けるということが大事なのだが、せっかく一次健診を受けて何らかの異常が見つかったにも関わらず、精密検査を受けないというケースもある。そのような方たちに向けた意味でも、委員の意見を参考に達成状況で記載をするようにしたい。

▼基本事業02「健康づくり活動の推進」

**【加藤委員】**

成果指標で「健康を維持するために実践している項目数」とあるが、どのような項目が選択できるのか。

**【佐藤参事】**

「適正な睡眠時間を取っている」「たばこを吸わない」「適正な体重を維持している」「過度の飲酒をしない」「週2回30分以上の運動をする」「朝食を毎日取る」「栄養のバランスを考える」「塩分を控える」「間食をしない」「その他」となっている。

**【加藤委員】**

その中で回答頻度の高いものは把握しているのか。

**【佐藤参事】**

全体で回答頻度の高い順では「朝食を毎日取る」「たばこを吸わない」「適正な睡眠時間を取っている」「適正な体重を維持している」「塩分を控える」「過度の飲酒をしない」となっている。

**【加藤委員】**

代表的な項目を達成状況などに記載した方が市民にとって、より身近なものとなりわかりやすいのではないか。

**【佐藤参事】**

了解した。

**【井上分科会長】**

基本事業の目的で「家庭、学校、職場、地域、医療機関と連携した健康づくり」とあるが、職場などの事業所では江別市内で特徴的なことはあるのか。

**【佐藤参事】**

保健センターとの双方の情報交換はあまりないが、職域から健康教育を依頼されたり、出前講座で講話を依頼されたりすることがある。

**【井上分科会長】**

健康意識の高まりによって出前講座の開催回数は増えているのか。

**【佐藤参事】**

件数自体は極端な右肩上がりということはなく、概ね横ばいという状況である。

**【事務局（川島課長）】**

市民に全市的な仕事の説明をするものとして出前講座を2年ほど前から開始しているが、特に健康づくりや防災の関連に対しては関心が強く制度的な整備ができる以前から年間を通してかなりの回数を出向して説明してきた経過がある。その意味では、江別に住んでいる方々はそのようなことへの関心が高いとも言える。

**【井上分科会長】**

そうであれば、江別市民としては江別市民の特性を知りたいと思う。それにあわせた政策が行われているのであれば、市民としては満足できることである。そのようなことが読み取れるような表現をしておくことが評価につながっていくのだと思う。

その意味で、市民の意識が低いところは指摘する必要があるのだと思うし、逆にそうでないところはしっかりと評価することでさらに良いものにしていくことを意識して、

表現を工夫していくと良いと思う。

**【佐藤参事】**

江別市の特徴として「地域健康づくり推進員の活動」が年々非常に充実しているため、その部分は記載している。

**【井上分科会長】**

地域健康づくり推進員は、ボランティアとして活動しているのか。

**【佐藤参事】**

そうである。

**▼基本事業03「母子保健の充実」**

**【桑名委員】**

基本事業の目的に「両親学級」とあるが、成果指標としてそれに関するものがない。アンケートでは両親学級に関わる設問はないのか。

**【佐藤参事】**

乳幼児健診のうち4ヶ月、1歳6ヶ月、3歳が保健センターでの健診の対象で、そこに来た方へアンケートを実施しているため、両親学級そのものについてのアンケートは行っていない。アンケートは実施していないが、年間4回の開催で89組の方々が参加していて、「勉強になった」や「奥さんの大変さがわかった」という声を頂いている。

**【桑名委員】**

数字として、両親学級について参加率や第一子の割合などを把握することは難しいということか。

**【佐藤参事】**

第一子かどうかは調査している。

**【桑名委員】**

せっかく「両親学級」という言葉ができてきたので、なんらかの指標などで表現できないか研究してほしい。

**【佐藤参事】**

了解した。

**【井上分科会長】**

ここで表現しなかったとしても、「男女共同参画社会の形成」のところでも使いうるデータなので、把握できるものは把握しておいた方が良いでしょう。

また、「育児相談の利用によって安心できた割合」などの数値は把握できないか。

**【佐藤参事】**

乳幼児健診の満足度調査の際に、利用の有無や感想を聞いている。その中で記述式のため指標等での表現は難しいが育児相談に関わる意見は多数いただいている。

**【井上分科会長】**

達成状況で「乳幼児虐待予防事業」とあるので、このような問題が起きることの要因として、母親の精神的安定や、子育ての悩みの解消というのが母子保健の分野なのだ

思う。そのようなことが読み取れて、江別で安心して子育てができると感じられる指標があるとよいのではないか。

**【萬施策マネージャー】**

客観的な数値として推移をみていくことは難しいものである。

**【加藤委員】**

新たに指標を設定しなくても事務事業で捉えている数字があるのであれば、成果指標や活動指標で使ってよいのではないか。安全かどうかということはアンケートを取らなければわからないが、関心を持っているかどうかということは、両親学級に参加組数や育児相談に来た方の人数に表れているのだと思う。データがあるのであれば参考指標として設定してよいと思う。

また、達成状況のところで「定性的」という表現は市民にとって分かりにくいと思うがどのような意図があるのか。

**【萬施策マネージャー】**

客観的・定量的に測る指標がなかなか無いということで「定性的」という表現にしている。

**【井上分会長】**

押さえた数値等を市民に対してどのように出していくかを工夫しなければいけない。例えば育児相談が多いことをマイナスの表現で出すのではなく、それだけ相談がしやすいというプラスの表現をすることで江別市の保健センターは近づきやすく、安心できる場所であるという捉え方ができる。そのようにしていくことで「江別市は安心して子どもを産めるまちだから第二子・第三子も産みたい」と思えるまちづくりをしていくことが行政の役割なのだと思う。行っていることは十分にわかるが、そのようなことが読み取れるような表現の工夫が必要である。

**【萬施策マネージャー】**

事務局とも相談しながら指標の設定や表現の工夫に努めたい。

**【井上分会長】**

了解した。

**▼基本事業04「医療体制の充実」**

**【高田委員】**

基本事業の目的で「休日や夜間に安心して適正な医療サービスが受けられるよう」とあるが、開業医と市立病院とでは一次救急・二次救急の位置づけはどのようになっているのか。また、ここで言う「医療体制」というのは市立病院のことなのか、それとも民間の医療機関のことなのか。

**【萬施策マネージャー】**

二次救急とは入院が必要な医療を提供する機関ということで、一次救急とは入院をしない通院程度の医療を提供する機関ということである。その意味で市立病院には300床を超える入院病床があるので、二次救急と言っても良いのではないかと考えている。ただ、実態としては軽傷で通院している方もいるので1.5次救急という言い方でも良いとは考

えている。

また、平日に関しては一般の医療機関が開業しているので、市立病院は入院が必要な重傷の方に比重を置くという棲み分けをすれば、医療資源が疲弊することなく運営されていくと感じている。

**【井上分科会長】**

広域化についての記載がないのではないかと。江別市内ですべての医療が完結するわけではないので札幌医療圏全体での医療体制の充実について達成状況に記載があった方がよいのではないかと。

**【萬施策マネージャー】**

もちろん、救急搬送についても市内では限られた数しか搬送先がないため札幌圏域全体の問題ではあるが、基本事業として市が行うものとしてはかなり限定的なものとなるということがあり、そのための記載である。

**【井上分科会長】**

了解した。

**【加藤委員】**

成果指標についてだが、対象を「市民」としているならば「休日当番対応医療機関数」と「救急対応医療機関数」とはあくまで活動指標であり、それぞれの医療機関での「受診者数」が成果指標となるべきではないかと。

**【萬施策マネージャー】**

事業の目的に関わるが、最終的には健康づくりに繋がる基本事業なので、病気になってもすぐに医療を受けられるということが目的なのだと考えている。基本事業のタイトルにもあるように「体制の充実」が主眼に置かれているため、成果としてはその体制の維持・充実となるのでこのような成果指標を設定している。

**【加藤委員】**

そうであるならば、対象が「市民」ではなく「市民及び医療機関」などではないかと。対象を「市民」としているのであれば、どのような体制で受診をするかということになるので、活動指標としてどれだけ医療機関が設置されたかということになり、そのことによつての成果はあくまで「受診者数」となるのではないかと。

**【事務局（川島課長）】**

4つある基本事業が最終的に「市民の健康づくり」に貢献していくという視点で組み立てられている。たしかに委員の指摘のように「医療体制の充実」をどう適切に表すかということについては策定時期から議論があり、休日・夜間診療に関する数字が市として正確に把握できるかというところがあり、代替手段として現状のような成果指標の設定となっている。ただし、委員からの指摘の部分をどのように表現できるかということについては所管と検討しながら適切な指標や表現方法を探りたい。

**【加藤委員】**

江別市の医師会が年間の市内の救急対応した受診者の数は公開できないものなのか。

**【萬施策マネージャー】**

医師会全体での数字は押さえられる。

**【加藤委員】**

その数字も含めてだが、あるものを有効活用する努力をしていただきたい。

～まとめ・評価～

**【井上分科会長】**

それでは評価のまとめに入りたい。

施策についての評価はどうか。

内容については大きな問題はなかったが、少々文言の整理が必要ということで「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業01に関してはどうか。

こちらについてもいくつか表現について指摘があったので「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業02に関してはどうか。

こちらについては、指摘等はなく工夫の余地があるといった趣旨の意見があっただけなので「適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業03に関してはどうか。

いくつか表現に工夫をしてもらいたいということで「概ね適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業04に関してはどうか。

こちらについては対象と成果指標の関連性について不整合な部分があったため「要検討」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

以上で、施策03-02健康づくりの推進についての外部評価作業を終了する。

**政策04 安全で快適な都市生活の充実**

**施策05 上下水道の整備**

- ・ 15時50分～16時00分 真屋課長説明
- ・ 16時00分～16時30分 質疑応答・指摘・評価

～全体を通して確認したい点、疑問点～

**【各委員】**

特になし。

～評価項目についての指摘・提言～

**▼施策04-05 上下水道の整備**

**【高田委員】**

施策の課題で「増加する水量に対応するための施設増強を進める」とあるが、現在では江別市の人口が減少しているという社会変化にも関わらず、「増加する水量」というのは整合性が取れないのではないかと。

**【真屋課長】**

下水道の場合、かなり以前に作成した認可計画書というものがあつたその計画を基に施設増強を進めてきたが、昨年度見直しをして今までの計画よりも下方修正した現実的な計画になっている。

**【高田委員】**

次年度記載する際にはその部分を修正していただけるか。

**【真屋課長】**

了解した。

**【桑名委員】**

環境変化で「ナショナルミニマム」や「シビルミニマム」とあるが、一般的にわかりにくいので補足等必要ではないかと。

**【安井課長】**

ここでの「ナショナルミニマム」とは、全国レベルでの標準を求める姿勢を表しており、「シビルミニマム」とは、江別という地域性を考えた上での取り組みの姿勢を表している。たしかにわかりにくい部分があるので、表現を工夫したい。

**【加藤委員】**

フォーマットが決まっているので仕方ない部分なのかもしれないが、対象を記載する際のフォーマットが「対象（誰を対象とした指標か）」となっている。そのことからするとこの対象として設定されているものが「市民、公共水域」となっていることに違和感を覚える。フォーマットを「対象（誰を・何を対象とした指標か）」とできないのか。

**【事務局（川島課長）】**

施策達成度報告書全体を通して共通で使用しているフォーマットであるのですぐに変更を加えることは難しい。

**【井上分科会長】**

「市民」と「公共水域」が並列に並んでいるためさらに誤解を招いている。改行して1行ずらすなど、何らかの工夫をしてはどうか。

**【事務局（川島課長）】**

了解した。区別しやすいように所管と協議しつつ何らかの工夫をしたい。

**【加藤委員】**

成果指標2つともが市民を対象とした指標なので、例えば達成状況にあるような「苦情件数」のような公共水域に関係する成果指標が必要ではないか。

**【真屋課長】**

苦情や問い合わせはそれなりの件数があり、把握している。

**【加藤委員】**

どれくらいの件数があるのか。

**【真屋課長】**

年間でおおよそ400件程度である。

**【加藤委員】**

人口1万人あたりの苦情件数を他の自治体と比較して苦情件数が少なければ、それは努力しているということで評価ができるのではないか。その意味では苦情・要望件数としても良いかもしれない。

**【井上分科会長】**

施策・基本事業を通して全般的に水道水に対する形容詞として「安全な」や「良質な」・「安心な」という言葉が使われているが、このように言えるだけの品質を証明できるような指標があればより良いのではないか。

**【安井課長】**

成果指標で「日常的に水道水を飲み水として利用している市民割合」とあり、市民アンケートのデータを参考にしている。江別市には上江別浄水場・漁川浄水場の2系統があるのだが、どちらも水質検査計画に則り1年間検査をした上で、検査結果を公表している。その結果は水質基準をクリアしたものであり記載も可能なのだが、それとは別に実際に飲んでいる方の感覚的なものをどのように汲み上げようかと考えて現在の指標の設定に繋がっている。そのため、委員の方から要望があるのであれば、検討のうえで成果指標に追加することは可能である。

**【井上分科会長】**

安心して飲めるという意味で「良質」を証明するような説明文等を織り込んでいきたい。その部分の記載があることで、市民割合の数値に価値がある。

**【安井課長】**

了解した。

## ▼基本事業01「安全で良質な水道水の安定供給」

### 【加藤委員】

札幌市や小樽市では水を販売している。江別市としてそのような挑戦はしたか。

### 【安井課長】

ペットボトル水については何度か検討したが、採算性の面からなかなか踏み切れない部分がある。

### 【井上分科会長】

水道水が十分に美味しいにも関わらず、水を「買う」。今後、このようなことが「普通」となっていくことで、子どもたちが「買った」水しか飲むことができないと認識してしまうことが一番怖いことではないか。

### 【安井課長】

我々としてもその部分は非常に懸念しており、環境広場や市民まつりなどで「利き水」を行っている。江別市2系統の水道水に加えて、他市の水道水、いわゆる「買う」水のそれぞれをどれかは明かさずにブラインドで飲んでもらい、おいしいと思う順に並べてもらう。かなりの期間続けてきたが、飲みなれている水ということもあってか、江別地区に住む方は「上江別浄水場の水が一番おいしい」とするし、大麻地区等に住む方は「漁川浄水場の水が一番おいしい」と回答する傾向が強く、逆に海外のペットボトル水が不評である。平成7年から高度浄水処理をしているため、他市と比べてもなんら遜色のない水質の確保ができています。以前に北海道からも「江別市は下流の水源を使っているにも関わらず、上流域の水道事業体などと変わらない浄水水質レベルであり、江別市の浄水処理技術が飛びぬけていることの証明である」と言われたこともある。これはあくまで数字上の話であるため、「利き水」などの取り組みを行っているが、先ほどのような結果が出ていることから、市民も「江別市の水がおいしいと実感している」と考えている。

### 【井上分科会長】

そのことを今まで以上にPRしていかないといけない時期に来ているのではないかと。飲み水はペットボトル水だけで、水道水は飲まないという習慣が子どもたちに根付いてしまうことは大変に問題である。

### 【安井課長】

その意味で、2年前より水道部の中で若手職員を中心として「水PR作戦会議」という名称のチームを作り、様々な会場で若年層とコミュニケーションを取りつつ、利き水やビデオ上映をすることで啓蒙活動に努めており、じわじわとその成果を実感している所である。

### 【井上分科会長】

大学と連携しているのだから、繋がりを十分に活かすことも検討してほしい。

### 【高田委員】

江別市の水道料金の徴収についてだが、公共料金であれば毎月徴収が原則だと思うが、江別市の場合は水道メータに関して地下埋設方式を取っている。これはどのような点において効率的・効果的だと考えているのか。

**【安井課長】**

全国的に主流な方式は、「隔月検針・毎月徴収」か「隔月検針・隔月徴収」である。江別市は、「4ヶ月検針」としているが、冬期間のことも考慮すると地区によっては「8ヶ月検針」となることもある。

ただし、検針の間隔を長くすることでその回数が減るために経費としては下がってくる。一方でガスや電気のメータのように地上に設置する電子式メータは視認性が向上することにより検針にかかる時間の短縮化がメリットとして挙げられるが、逆にメータの価格が地下式よりも電子式の方が倍以上高い。さらに計量法により8年に一度メータを取り換えることとなっている。このようなことを考えると、全国的に主流な「隔月検針・隔月徴収」を行うとすると、それだけ毎年経費が嵩むという一面もある。それだけの費用を使って利便性を上げるメリットと、現状のように検針回数を減らすことでかかる経費を減らすメリットについてどちらがいいのか、ということについては常に議論している。

**【高田委員】**

その部分に対して苦情等はないのか。

**【安井課長】**

苦情というよりは詳細な説明を求められることが多い。

**【井上分科会長】**

この件については基本事業01で扱うことに関しては議論の余地がある。しかし、確かに市民が知りたいことではあるはずなので、答えられる部分があれば答えていただきたい。

**【村山係長】**

指摘のとおり、4ヶ月検針という方式を取っていると、毎月見込みで料金をいただくことになるため、検針時の精算で実際の使用量が見込みより少ない場合は見込みで多くいただいていた分の料金を還付させていただくことになる。逆に実際の使用量が見込みより多い場合は不足分の料金を後から賦課させていただくことになる。制度自体がわかりにくいこともあり、料金精算の部門においては説明を求められることもあり苦勞している部分がある。

**【井上分科会長】**

施策「上下水道の整備」として評価することではないので、この辺でその件については終了としたい。答えていただき感謝する。

**▼基本事業02「汚水・雨水排除の推進」**

**【井上分科会長】**

達成状況で「未水洗世帯」に関する記述があるが、農村地域では必ずしも全ての水洗化が必要ではないという観点から江別市内100%の水洗化を目指してはいないということだったように思うがその通りか。

**【真屋課長】**

その通りである。その地区にまで管を敷くとなるとコストの問題と、そもそも下水道を利用する住人が少ないという問題があり100%は目指していない。

**【井上分科会長】**

成果指標「水洗化率」とはどのようなものか。

**【真屋課長】**

水洗化にしている人の人口を水洗化にできる地区の人口で割り返したものである。

**【井上分科会長】**

了解した。

**【加藤委員】**

下水の汚泥処理はどのようにしているのか。

**【真屋課長】**

汚泥については100%農地に還元している。

**【加藤委員】**

了解した。評価できる部分ではないか。

**【井上分科会長】**

市民としては江別市に住んで良かったと思いたい。その中でそのような取り組みが行われているのであれば達成状況等に記載したほうがよい。

**【真屋課長】**

了解した。

～まとめ・評価～

**【井上分科会長】**

それでは評価のまとめに入りたい。

施策についての評価はどうか。

特に問題はなかったように思うので「適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業01に関してはどうか。

こちらについても表現方法等なら問題がなかったので「適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

基本事業02に関してはどうか。

内容としては問題がないので「適切」としてはどうか。

**【委員】**

(同意)

**【井上分科会長】**

以上で、施策04-05「上下水道の整備」についての外部評価作業を終了する。

11:50終了。